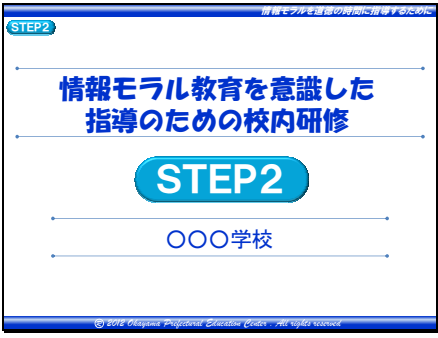
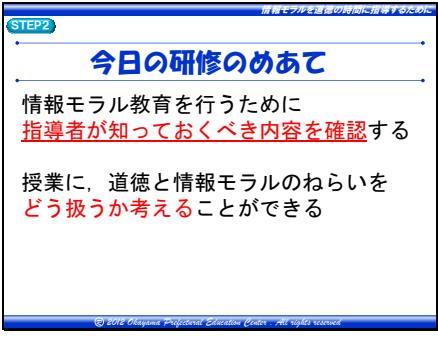
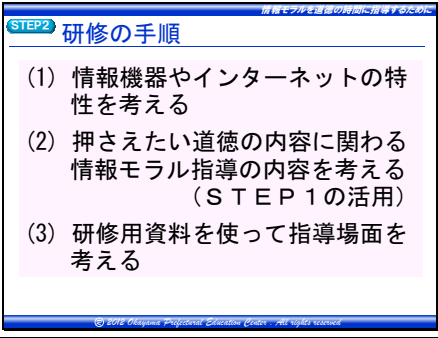
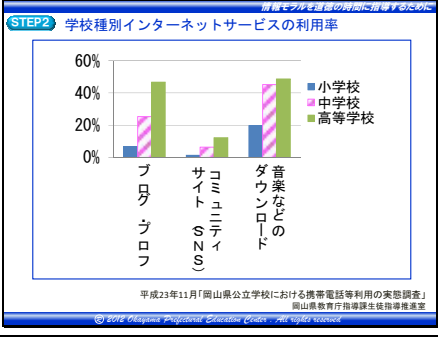
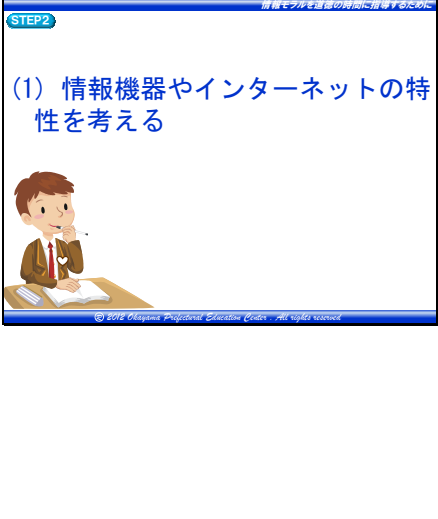
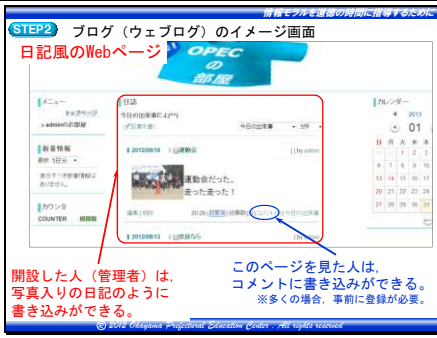


<p>スライド1</p>		<p>これから、道徳の時間に行う情報モラルを例として校内研修、STEP2を始めます。●</p> <p>(使い方のヒント)                  ※「F5」のキーを押すと、スライドショーを最初から始めることができます。                  ※「●」は、スライドを進めるタイミングです。原稿を読み進め、「●」の所で、クリックしてください。                  ※「(問) …？」は、問です。「(問)」の無いところでも、応答しながら説明をすると効果的です。</p>
<p>スライド2</p>		<p>今日の研修のめあてです。このSTEP2は、先生方が、研修用資料で事前に知っておくべき情報モラルの内容を確認した上で、授業の中にどう取り込むかを協議、確認します。各教科・領域等の授業を行う際も、事前に利用する教材やねらいと情報モラルの関連を確認する今回のような方法を応用することにより、情報モラルを指導する学習活動を組み込みやすくなります。●</p>
<p>スライド3</p>		<p>STEP2で行う内容です。                  はじめに、研修用資料に登場する情報機器やインターネットで提供されているサービスの特性を考えます。                  次に、STEP1を活用して、資料を読み、指導場面を考えます。●</p>
<p>スライド4</p>		<p>研修に入る前に、今回の資料の背景を紹介します。平成23年度の「岡山県公立学校における携帯電話等利用の実態調査」によると、携帯電話等の所持率はね小・中・高と発達段階に応じて高くなっており、高等学校の生徒では約95%以上になっています。携帯電話等に関する被害やトラブルも、この所持率に合わせて増えていきます。調査結果の一部ですが、ご覧のように「ブログ・プロフ」や「音楽などのダウンロード」等の利用が増えていることから、ブログ・プロフやダウンロードなどに関する内容について被害やトラブルに巻き込まれる危険性が高く、情報モラル指導を行っていくことは大切であると考えられます。●                  今回の研修用資料は、ブログを扱った内容になっています。●</p>
<p>スライド5</p>		<p>これから扱う資料に出てくるインターネットで提供されているサービスは、「ブログ」、正式には、ウェブログです。扱う資料や教材によっては、このようなインターネットや情報機器などの特性を事前に確認しておく必要があります。●</p>

スライド  
9



このブログは、先ほど紹介した県の実態調査では、中学生で2割程度、高校生で5割弱が利用したことがあると回答しています。

- ブログは、日記風のWebページです。このような、Webページをご覧になったことはありませんか？
- ブログでは、開設した管理者が、Webページを簡単に更新できます。特別なソフトはいりません。

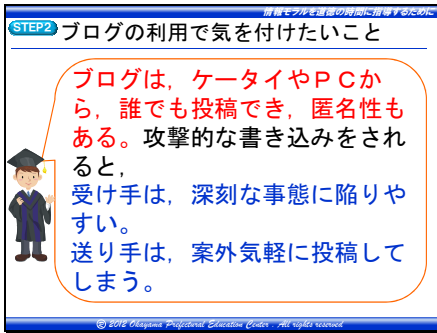
●ブログは、ログインするパスワードの設定などがなければ、誰でも見ることができます。友だちとブログを紹介し合い、コメントに書き込み合うこともできます。

見る人は、「コメント」をクリックすると、感想などを書き込むことができます。「コメント」は、事前に名前などを登録することによって書き込むことができるように設定されている場合が多いですが、事前の登録で、偽名を使うなどすれば匿名での書き込みができる場合があります。事実を詳しく知らない人が、勝手な判断で書き込みをすることもあり、問題となる場合があります。

(問)このブログで、どのような問題が起こりそうでしょうか。少し話し合ってみてください。

(1分後、指名)  
色々な問題がありそうです。●

スライド  
7



ブログでの情報発信は、他の情報発信と同じで、見る人の気持ちも考えながら、行う必要があります。

ブログ等へ多数の攻撃的な書き込みをされることを「炎上」といいます。攻撃的な投稿は、管理者を深刻な事態に陥れてしまいます。逆に管理者の書き込みに対して投稿する送り手側は、投稿する手軽さや投稿するときには直接相手が目の前にいないことなどから安易な気持ちで投稿してしまう危険性があります。当然、管理者であっても、つい攻撃的な投稿をしてしまえば、加害者になり得ます。●

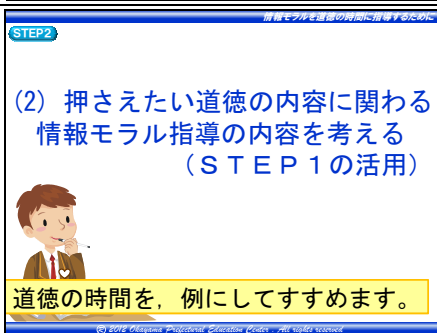
スライド  
8



インターネット上には、多くのブログがあり、その中には有益な情報が多数あります。ブログに投稿する人がお互いに気を付ければ、気持ちよく情報を交換し合うことができ、大きなメリットがあります。

このようなインターネットや情報機器などの特性を事前に確認しておくことが大切です。教材や資料の内容理解にも役立ちます。●

スライド  
6



「STEP1」の研修を生かして、研修用資料を基にして道德を例として、押さえない道德のねらいと情報モラル指導のねらいを考えます。●

スライド 10

STEP2 情報モラルを題材にした資料を読む

研修用資料「大きな楠の木の  
下で」を黙読します。

- 道徳のねらい
- 情報モラル指導のねらい

(時間 7分間)

ブログを題材にした資料をお配りします。  
この資料も、情報モラルを分かりやすく示した研修用資料です。道徳のねらいと関連する情報モラル指導のねらいは何かを考えながら読んでください。

時間は、7分です。

※様子を見て、時間を短くしてもよい。●

スライド 11

STEP2 道徳のねらい (内容項目) について

小学校第1学年及び第2学年	小学校第3学年及び第4学年	小学校第5学年及び第6学年	中学校
---------------	---------------	---------------	-----

1 主として自分自身に関すること  
自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図ることに關するものである。

2 主として他の人とのかかわりに關すること  
自己を他の人とのかかわりの中とらえ、望ましい人間関係の育成に關するものである。

3 主として自然や崇高なものとのかかわりに關すること  
自己を自然や美しいもの、崇高なものとのかかわりにおいてとらえ、人間としての自覚を深めることに關するものである。

4 主として集団や社会とのかかわりに關すること  
自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中とらえ、国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成に關するものである。

※この四つの視点は、相互に深い関連  
「学習指導要領解説道徳編」(文部科学省)

道徳の内容項目一覧表を見てください。  
ご存じの通り、「学習指導要領解説道徳編」では、「それぞれの発達の段階や道徳的課題を考慮し、児童が人間として生きていくうえで主体的に学ぶべき内容として、その基本的なもの」が、四つの視点で「内容項目」として示されています。

(問) 一つ目が? → 主として自分自身に関すること  
(問) 二つ目は? → 主としてほかの人との関わりに関すること  
などです。

次の情報モラル指導モデルカリキュラム表を見くらべます。●

スライド 12

STEP2 情報モラルの視点を確認する

情報モラル指導モデルカリキュラム表

読み物資料を読んで、関わりがある目標を見付ける。

次に、道徳の内容項目と、情報モラルの学習内容と照らし合わせてみると、主に、「自分自身に関すること」「他の人とのかかわりに關すること」「集団や社会とのかかわりに關すること」と関連が深いことが分かります。

カリキュラム表は、右へ行くほど学年が上がります。

また、下には五つの柱が表示されています。●

STEP1と同じように、この資料の内容と特に関わりが深いと考えられるところを相談して、学年に合わせて丸を付けてください。

(1~2分程度様子を見て、グループに指名して紹介してもらいます。)

スライド 13

STEP2 情報モラルの視点を確認する

情報モラル指導モデルカリキュラム表

1. 「情報社会の倫理」  
a 1~3  
…発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ  
等

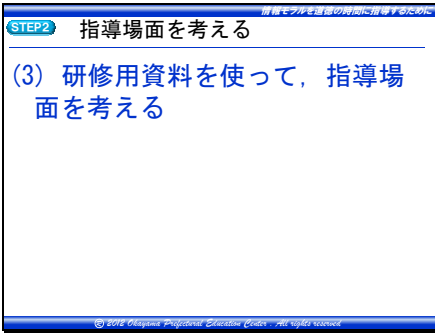
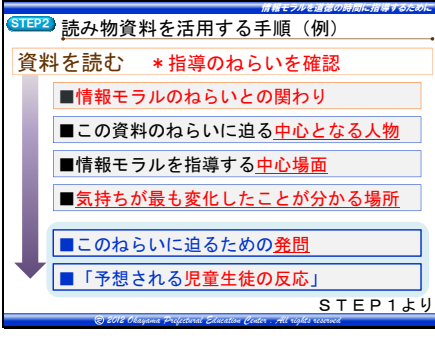
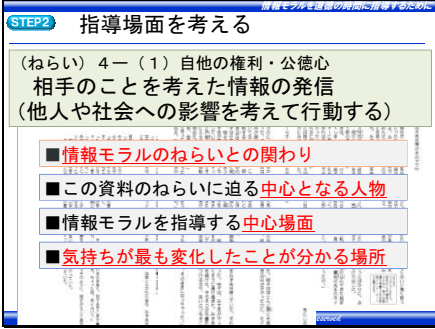
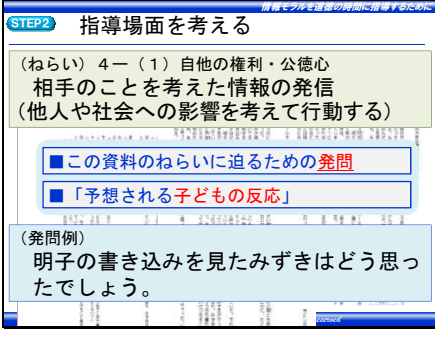
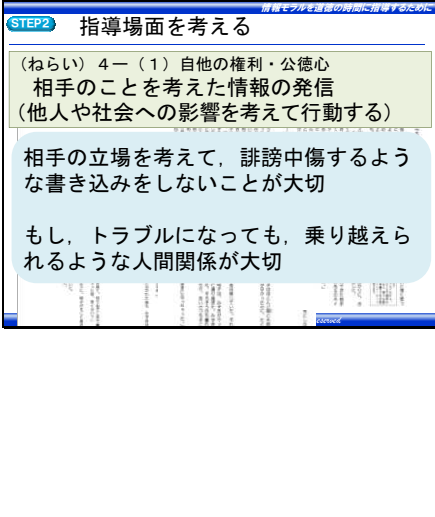
この資料とモデルカリキュラム表の内容を関連付けると、「1.情報社会の倫理 a1~3発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ」ところから学年に合わせて選ぶことができます。●

スライド 14

STEP2 情報モラル指導モデルカリキュラム表

道徳の時間を、例にしてすすめます。

道徳の時間を例にとり、研修を進めていきます。  
ただし、全ての資料でこのような進め方ができるわけではありません。●

<p>スライド 15</p>		<p>最後に、これまでに確認した内容を踏まえて、道徳の授業にどのように生かすか考えます。●</p>
<p>スライド 16</p>		<p>STEP1の後半では、モデルカリキュラム表と関わらせながら資料を活用するときの手順例を基に研修しました。この手順例を基に道徳のねらいを踏まえて、考えます。今回はこの研修用資料の道徳のねらいを「公德心をもって法やまもりを守り、自他の権利を大切にする」に設定すると、一方で、情報モラル指導のねらいでは、「他人や社会への影響を考えて行動する」があたりまえです。●</p>
<p>スライド 17</p>		<p>中心となる人物、中心場面、気持ちが最も変化したことが分かる場所を話し合ってください。 (5分後、グループに指名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心となる人物 : 明子(みずきも変化している)</li> <li>・中心となる場面 : ④</li> <li>・気持ちが最も変化したことが分かる場面 : みずきがサッカーの練習を続けていることが分かった場面●</li> </ul>
<p>スライド 18</p>		<p>発問例のような具体的な発問を考え、それに対する児童の反応を予想します。はじめに1分ほど、各自で考えてみてください。その後、紹介し合います。 (1分後) では、お互いの考えを紹介し合しましょう。 (3分後、グループに指名)</p> <p>他のグループはいかがでしたか。 ●</p>
<p>スライド 19</p>		<p>本時のねらいをまとめると、 ブログは、友だち同士でのトラブルの引き金になってしまうこともあります。相手の立場を考えた行動を大切にすることで、誹謗中傷するような、うかつな投稿は絶対にしないという気持ちが育つことは、情報モラルの視点からも大切なことです。もちろん、道徳のねらいに迫る中で、互いに気持ちを伝えたり態度に示したりすることができ、もしトラブルがあっても乗り越えることができるような人間関係を築いていくことも大切です。●</p>

スライド 20

STEP2

**研修のまとめ**

☆情報モラル教育は、安全教育・**危険回避**の側面と、**情報倫理**という側面がある。

☆情報モラルに関わって、情報や情報機器には特性がある。本時の**ねらいと関連させて、必要に応じて指導する。**

事前指導の方が効果的な場合もある。

☆研修では例として**道徳を扱ったが、実態や発達段階に合わせた系統性を意識して学校全体で指導する。**

© 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

☆情報モラル教育は、安全教育、危険回避の側面と、情報倫理という側面があります。学習指導要領解説道徳編には、道徳の時間は、危険回避の方法を練習する時間ではなく、内容項目を踏まえて指導するよう示されています。

☆本時のねらいと情報モラル教育のねらいの関連を明確にして、必要に応じて情報や情報機器の特性を扱います。必要以上のことは、事前に別の機会を設けて指導します。

☆実態や発達段階に合わせて、各教科・領域等で具体的に情報モラルを指導する場面を想定し、系統性を意識しながら、学校全体で情報モラルを指導する学習活動を組み込んでいきましょう。●

スライド 21

STEP2

**これで、研修を終わります。**

**お疲れさまでした。**

© 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

これで研修を終わります。お疲れさまでした。